

経営比較分析表

岡山県 里庄町

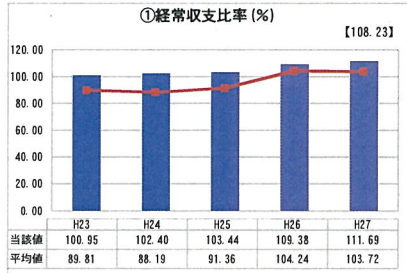
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	48.15	58.99	100.87
		1か月20㎡当たり家庭料金(円)	3,240

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,159	12.23	912.43
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,568	2.92	2,249.32

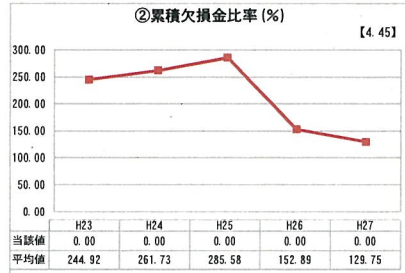
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

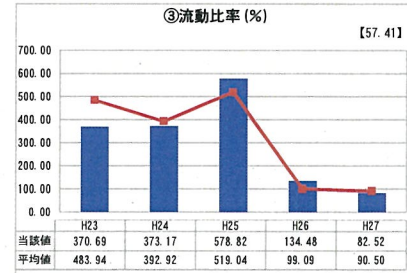
1. 経営の健全性・効率性



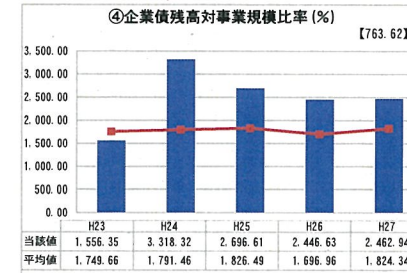
「経常損益」



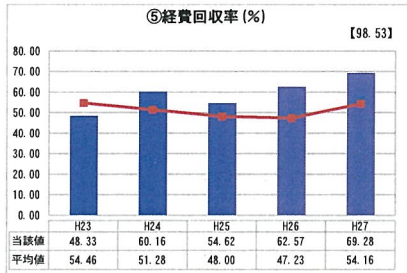
「累積欠損」



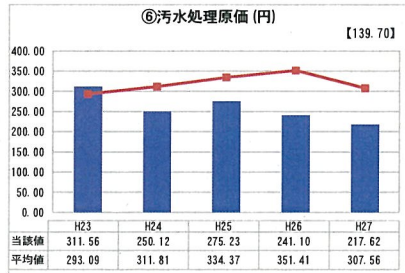
「支払能力」



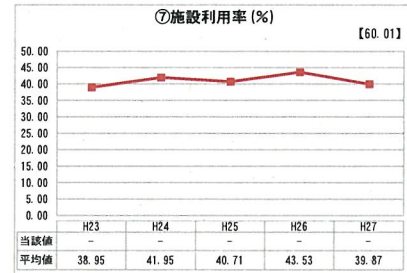
「債務残高」



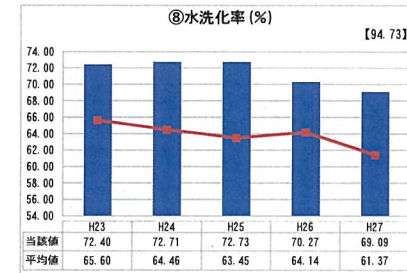
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

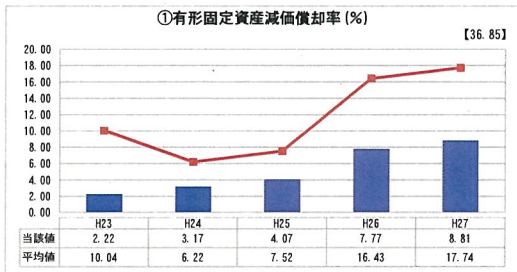


「施設の効率性」

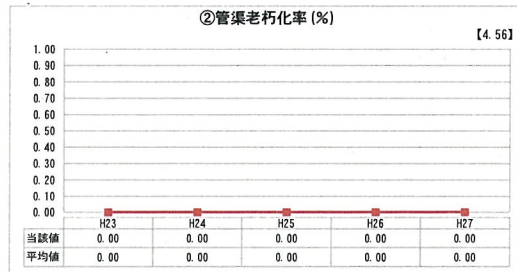


「使用料対象の捕捉」

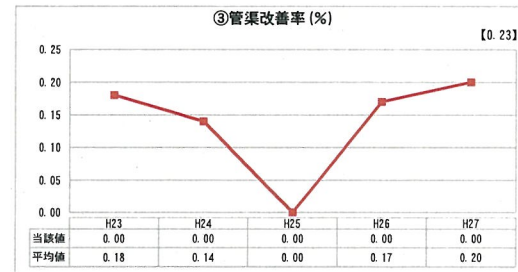
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

累積欠損金が無く、経常収支比率が100%を超えているので経営状況は良好である。しかし、経費回収率をみると、汚水処理に係る費用を下水道使用料で約7割しか賄えておらず、残りは主に一般会計からの繰入金に頼っているのが現状である。経費回収率は徐々に増えており、逆に汚水処理原価は下がってきているので、有収水量や下水道使用料の増加がうかがうことができる。下水道自体がまだ整備途中であるため、今後も整備を進めていけば使用料収入のさらなる増加も見込め、一般会計からの繰入金を削減することができる。

2. 老朽化の状況について

平成16年から供用開始しており、管渠等はまだまだ新しく老朽化していない。

全体総括

里庄町では、供用開始が平成16年を遡く、下水道整備予定の区域の約59%の整備が終わったばかりで、一般会計からの繰入金も多いが、管渠の整備が進んでいけば有収水量も増加し、使用料収入も増える見込みである。これからもさらなる経費節減に努め、水洗化率向上につながるよう引き続き住民に向けて下水道への接続をお願いしていきたい。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
 ※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。